

「'fifth dimension' 展」 'fifth dimension' exhibition

代表 井生 文隆* Fumitaka Io
 谷川敬二郎** Keijiro Tanigawa
 眞鍋廣重貴*** Hiroaki Manabe

1. はじめに

「存在感ある地域貢献大学」をめざす山口県立大学では、地域の活性化に取り組んでいる。筆者研究室においては、地域の活性化と地球環境保全への貢献の一翼を担うべくアート&デザイン活動を通して、その具現化に取り組んでいる。常日頃の研究活動の成果を社会に向けて発表することにより、地域の人たちをはじめとした客観的な意見や評価を得て、研究活動へのフィードバックを図ることを重要視している。また、地域の文化創造意識の啓蒙、地域に根ざした大学への取り組みについての示唆などを探索することにも注力している。そのような活動の展開を推進すべく、今回の展覧会を企画する。

テーマである“fifth dimension”の由来は、2次元の平面作品と3次元の立体作品を展示するので、足して5次元ということである。また、我々が存在する3次元の世界を超越した発信を目指すことも趣旨としている。

2. 展示発表者

谷川敬二郎：山口県立大学大学院国際文化学研究科

眞鍋廣重貴：山口県立大学大学院国際文化学研究科
 【特別展示】

井生文隆：山口県立大学大学院国際文化学研究科教授

3. 展覧会期間/場所

2009年3月20日（金）～3月22日（日）

山口市民会館展示ホール（山口市）

4. 主催

山口県立大学井生研究室

5. 後援

山口市、山口県立大学

6. 作品/谷川敬二郎

1) テーマ：「対象の変質による表現」

2) コンセプト

「対象」とは、言い変えるならば、環境問題や戦争、事件・事故などの社会的な問題や、私自身の過去の経験や記憶などである。

「変質」とは、前に述べた「対象」を私の意識の中で「再構築する」ということである。「再構築」の中には、「対象」に私自身の「想い」や「社会に向けたメッセージ」が付け加えられるため、客観的に見た「対象」というものの「質」に「変化」が起きる。このことから「変質」と名付けた。

本テーマの重要性は、上記を踏まえたうえで「作品」として表現することにより、付け加えた「想い」や「メッセージ」を具現化し、この社会に生きる独りの人間として「私はこうだ!」という「自己の主張」を提示するということだ。

また、多くの対象に触れることで自己の認識を深め、自身の置かれている環境に感謝し、能力や特技を社会に還元していく必要がある。そのためには、今まで以上に多くの対象に接し、自身の精神を高めると共に、「何が社会や私にとって本当に大切であるかどうか」という判断力も高め続けなければならない。

3) 展示作品/平面作品（5組、全12点）

「五感」…「視覚」/「嗅覚」/「味覚」/「聴覚」/「触覚」

「種」…「亡骸」/「廃墟」

「Connection」…「Air plane」/「Bubble」

「夢」

「遠景」+「汚染」

4) 受賞 「亡骸」：第63回山口県美術展覧会 入選

* 山口県立大学大学院国際文化学研究科教授 Professor of Graduate School of International & Cultural Studies, Yamaguchi-Prefectural University
 ** 山口県立大学大学院国際文化学研究科2年 Student of Graduate School of International & Cultural Studies, Yamaguchi-Prefectural University
 *** 山口県立大学大学院国際文化学研究科2年 Student of Graduate School of International & Cultural Studies, Yamaguchi-Prefectural University

7. 作品/眞鍋廣亜貴

1) テーマ: 「I am Mossman」

2) コンセプト

今、エコロジー活動や環境保全など持続性ある社会の具現化について謳われることが多いが、その活動すべてが本当に地球環境のためと言えるのかどうか疑問を感じる。経済効果を狙うため、「エコ」という言葉を使っているのではと考えることも多い。そんな矛盾した行為を己の利益のみで継続し、環境問題について見て見ぬ振りをするのは、当然地球環境に大きな悪影響を及ぼし自分たち人間が滅亡することに繋がることは必至である。

人間は何万年の間、地球環境に順応して進化を遂げ、現在も日々進化していると考えられる。未来において、地球環境の悪化により植物や自然が消失することが想像される。その時点で進化を続ける人間は環境に必要な植物や緑そのものを、自らの身体をもって造り出すというような進化した新人類が誕生することも考えられる。

この一連の時空のながれのイメージがベースとなり、今回の作品である「I am a Mossman」を具現化する。この作品は、見る人に対して地球環境の悪化により人間が生きることができない未来は嫌だという諦めを感じさせたり、恐怖感を印象づけるだけでなく、人が自らの手で傷つけてきた環境(地球)は、自分たちの身をもって償わねば戻って来ないというメッセージを可視化している。

更には自分が人間であり、地球に生かされているということを再確認することで、環境やエネルギーの大切さに気づき、真の意味で地球の未来を危惧する心が芽生えるようにという思いも込めている。

3) 展示作品/立体作品 (1点)

物語・コンセプトシート (パネル4枚)

Mossman's Sound (1曲)

4) 受賞

第63回山口県美術展覧会 入選

8. 作品/井生文隆【特別展示】

1) テーマ: 「kuutio」

2) コンセプト

山口県は日本有数の規模を誇る竹林面積を有している。2002年に萩の竹ブランド化に向けて「有限責任中間法人萩の竹ブランド化推進協議会」が設立され、当会より竹製品に関するデザイン開発を研究受託する。1996年より「環境保全と地域の産業の活性化をデザインにより具現化」をテーマとした共同研究を継続するフィンランドデザイナーと共に取り組み、萩市やフィンランド・フィスカースで展覧会を開催する。その後プロジェクトは発展し、2004年には東京新宿と萩市において、そして2005年にはフィンランド・ヘルシンキのデザインフォーラムにて展覧会が開催される。2006年には「TAKE Create Hagi株式会社」が設立され、2008年にトム・ディクソン氏デザインの竹積層合板家具が、フィンランド・アルテック社より世界に向けて販売が開始される。森林保全と関係する竹製品が具現化されることにより、「環境への寄与と地域の活性化」という目標を実現・達成するに至る。

"kuutio" (フィンランド語でキューブ) は、2009年に新しくデザイン開発したシンプルでソフトな魅力あるフォルムとライフスタイルの変化に対応可能なシステムを特長とした竹積層成形合板によるシェルフで、使い続けることで暮らしに馴染み、愛着がわき、価値が向上するという、いつまでも新鮮な魅力を持つパティナー&タイムレスデザインを追究する。

また、以下の展示会に招待出品した。

Value of Design <CHIKARA> project 展

日時: 2009年9月18日~23日

場所: ヨコハマ・クリエイティブシティ・センター

主催: 武蔵野美術大学(木工コース)/orihinuk

協賛: 小田原箱根伝統寄木協同組合他

協力: 財団法人クラフトセンタージャパン他

後援: 財団法人横浜市芸術文化振興財団他

フライヤー (デザイン: 谷川敬二郎)

art and design exhibition

Fifth dimension

09.3.20 [Fri] → 22 [Sun]

open 10:00 close 20:00 ※20日(金)のみ20時~22時

会場 山口市市民会館展示ホール (入場無料)

Fifth dimension art and design exhibition

09.3.20 [Fri] → 22 [Sun] open 10:00 close 20:00
※20日(金)のみ20時~22時

会場 山口市市民会館展示ホール (入場無料)
〒753-0074 山口市中央2丁目5番1号 TEL: 083-923-1000 FAX: 083-928-8488

趣旨
山口県立大学大学院において、修了に向けた日常の創作活動の成果を発表・展示致します。

出展者
谷川 敬二郎 / 眞鍋 廣亜貴
(山口県立大学大学院 国際文化学研究所1年)

お問い合わせ
山口県立大学プロダクトデザイン研究室 井生文隆
〒753-8502 山口市桜島3-2-1
TEL & FAX: 083-928-5491
E-mail: fio@yamaguchi-pu.ac.jp

アクセスマップ

国道9号線 山口市市民会館
山口市民会館
山口市役所
山口中央郵便局
山口駅

【主催】山口県立大学 井生研究室 【後援】山口市 山口県立大学

ポスター (デザイン: 谷川敬二郎)

文部科学省現代GP(地域の活性化・地元型)支援事業

art and design exhibition

Fifth dimension

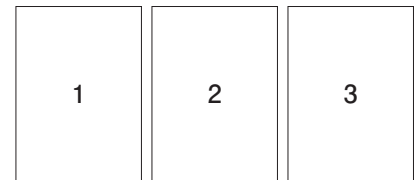
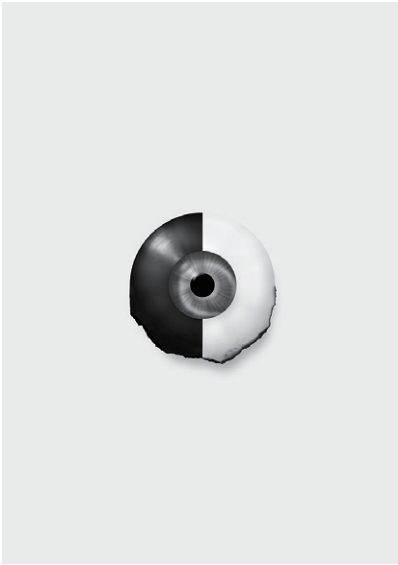
09.3.20 [Fri] → 22 [Sun]

open 10:00 close 20:00 ※20日(金)のみ20時~22時
【入場無料】

会場 山口市市民会館展示ホール

お問い合わせ
山口県立大学プロダクトデザイン研究室 井生文隆
〒753-8502 山口市桜島3-2-1 TEL & FAX: 083-928-5491 E-mail: fio@yamaguchi-pu.ac.jp 【主催】山口県立大学 井生研究室 【後援】山口市 山口県立大学

作品No.1 「五感」



- | | | |
|---|---|---|
| 4 | 5 | 1. 「視覚」
2. 「嗅覚」
3. 「味覚」
4. 「聴覚」
5. 「触覚」 |
|---|---|---|

手法 : CG合成
制作環境 : Adobe Photoshop CS2
Adobe Illustrator CS2
サイズ : 728×1030mm × 5枚

【作品コンセプト】

この作品は、「人間の感覚器官五つ」を対象とした作品である。「ものづくり」で最終的に必要なものは、自分自身の感覚である。これを見た人に、「個々の感覚の重要性」を「再認識して欲しい」という想いをこめて制作した。

作品No.2 「種」



※ 左から「亡骸」、「廃墟」

手法：デジタルコラージュ

制作環境：Adobe Photoshop CS2 Adobe Illustrator CS2

サイズ：728×1030mm × 2枚

【作品コンセプト】

「死」や「廃墟」といった、負の印象が付きまとうものを対象とした作品。それを「種」と捉えることにより、「新しい芽生えがある」というプラスの印象を持たせた。

「死」を対象とした作品「亡骸」では、事件や事故で亡くなってしまった人たちが、まるで「無駄死に」とさえ思ってしまうような社会の現状がある。その人たちの「死」を絶対に無駄にはしてはいけないという想いで制作した。「廃墟」では公共事業の一環で建てられた施設が、利用されず無駄となっている現状がある。これも「亡骸」同様、新しい価値観をこれからの時代の人間が協力して考えていかなければならないという想いで制作した。

作品No.3 「Connection」



※ 上から「Air plane」、「Bubble」

手法：手描き 制作環境：ポスターカラー サイズ：1700 × 600mm

【作品コンセプト】

基本（原点＝手描き）に立ち返り、さらなる発見に「つなげる」ために制作した作品。

作品No.4 「夢」

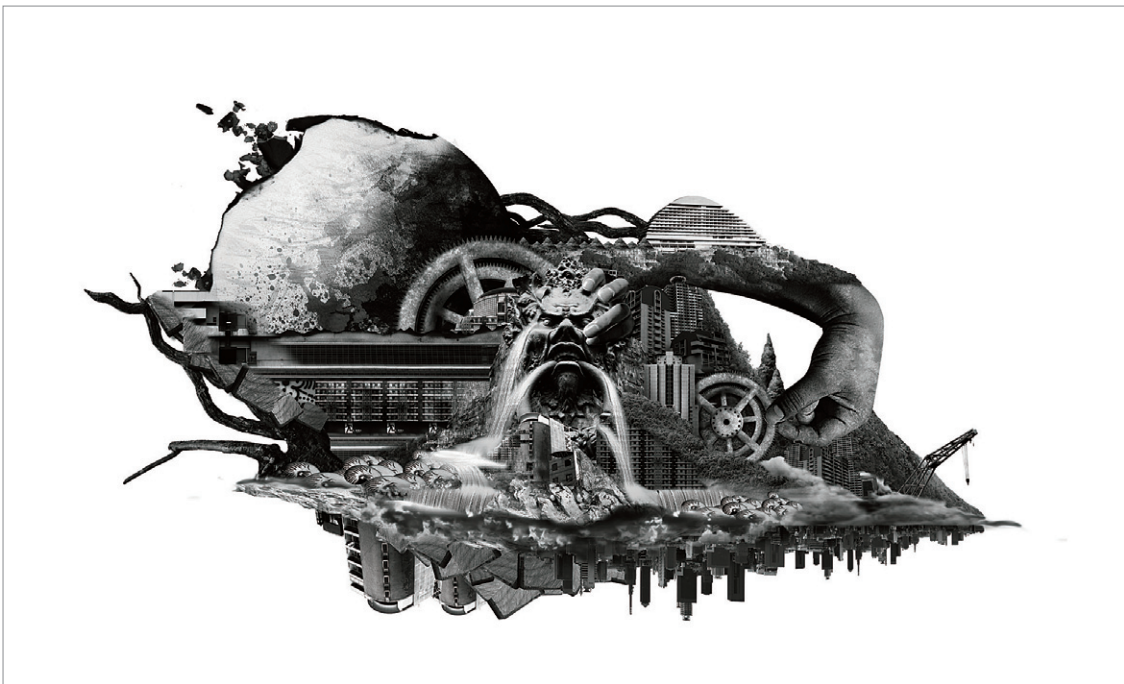
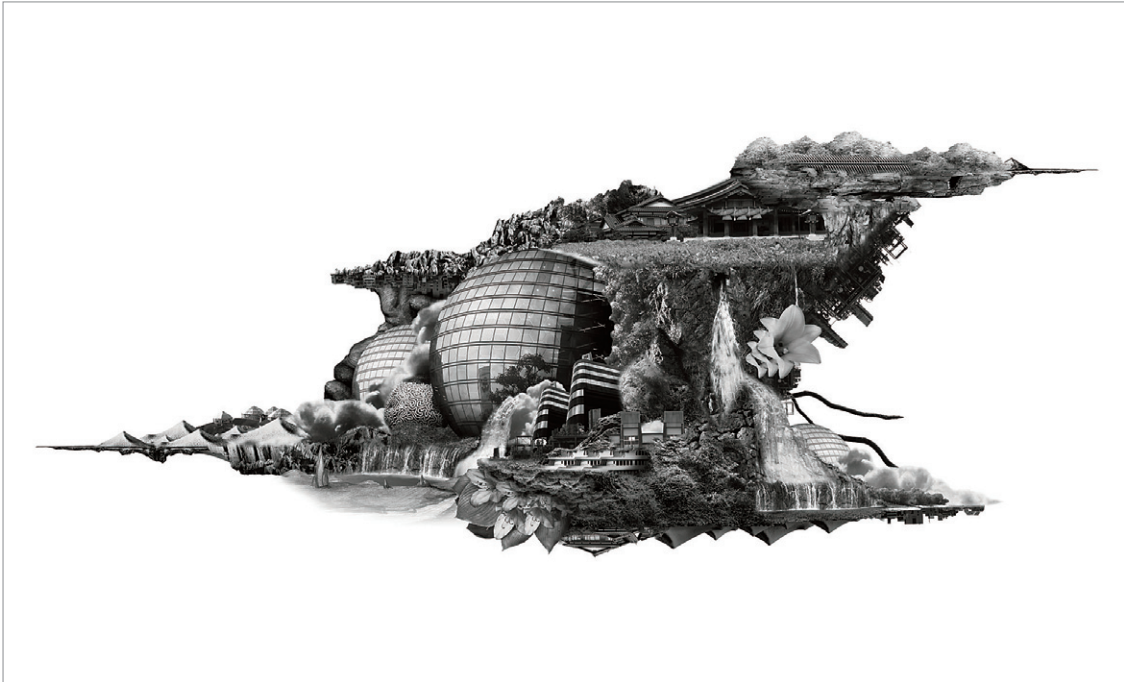


手法：デジタルコラージュ 制作環境：Adobe Photoshop CS2 Adobe Illustrator CS2 サイズ：2912×1030mm

【作品コンセプト】

「見ていて何だか楽しくなる絵」がこの作品のコンセプト。また、今までの私にはなかった色使いや画面の構成に挑戦した作品。

作品No.5 「遠景」 + 「汚染」



※ 上から「遠景」、「汚染」

手法：デジタルコラージュ

制作環境：Adobe Photoshop CS2 Adobe Illustrator CS2

サイズ：1400×850mm × 2枚

【作品コンセプト】

これらの作品は「人間の創造力」を対象とした作品である。「遠景」ではそれが「未来への希望」であって欲しいという思いを込めた。一方、「汚染」ではそれが人間の欲求を満たすためだけのものになりバランスを崩した時、多大な被害をこうむる「危険性」をはらんでいるということを改めて理解してほしいという想いで制作した。

展示風景





作品 「I am Mossman」

素材 : シーティング、廃棄布団、オイル、ワトソン紙、水苔

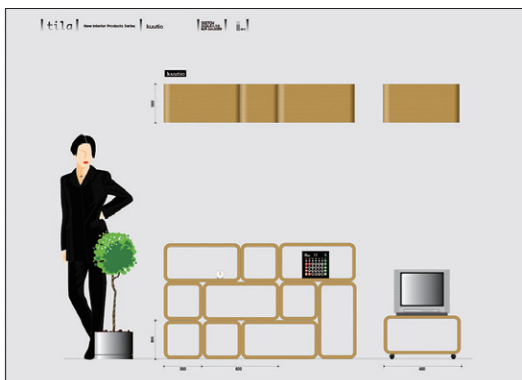
サイズ: H 2500 × W 1500 × D 800(立体 1体)

H 297 × W 420 × D 20(物語・コンセプトパネル 4枚)



- 1 Mossman
- 2 Mossmanの足
- 3 物語・コンセプトパネル
- 4 展示空間





特別展示作品 「kuutio」

シンプルでソフトなフォルム、ライフスタイルの変化に対応する機能を持ち、自在なレイアウトが可能なシェルフ。竹のもつ工芸的なハイグレード感、強度、重量による凝縮感、暖かな印象である有機的素材という点で、通常の木材、プラスチック、金属素材と比較しての優位性を持つ。また、海外においてはオリエンタルなイメージが特色となる。フィニッシュは環境に優しいオイルを使用し、竹の節が表現する美しいテクスチャーを活かした質感を具現化している。

